

天野貞祐 哲学者・教育家。カントの権威となり個人主義を説いて弾圧され、<敗戦>後は文相になる一方、野球振興に尽くした。

あまのていゆう

秩父事件・・・1884 = 神奈川県津久井郡鳥屋村(津久井町)で、八王子の自由民権家の豪農の家から入り婿し、村長から衆院議員まですることになる政治家天野藤三の四男に生まれる。母は種。身内に尾崎行雄。

帝国憲法発布1889 = 5歳 :

生来虚弱体質で、

郡司千島探検1893 = **9歳** :

日清戦争始・1894 = 10歳 :

息子それぞれの将来を考え、_医者にしようとしていた父から強く勧められて、

八幡製鉄始・1897 = 13歳 : **独協中学に入学。**

_全盛期の野球部に出会い、身体鍛錬も兼ねて入部、学業も疎かに熱中するが、

田中正造直訴1901 = 17歳 : **足を痛めて退部、帰郷して回復に専念するうち、母とチフスに罹り、母が死去。失意のうちに、中退。**

教科書疑獄・1902 = **18歳** :

_内村鑑三の「後世への最大遺物」を読んで立ち直り、

日露戦争終・1905 = 21歳 : **独協中学5年に復学、ドイツから帰国直後の校長大村仁太郎の影響を受け、教育家へと志望を転換。**

満鉄発足・・・1906 = 22歳 :

_首席で卒業し、第一高等学校に入学。

九鬼周造・岩下壮一らと生涯の友となり、ヒルティの「眠れぬ夜のために」を愛読、

_カント哲学研究を志し、

伊藤博文暗殺1909 = 25歳 :

_京都帝国大学文科大学哲学科に進学、桑木巖翼のもとでカント哲学を学ぶ。

大逆事件判決1911 = **27歳** :

明治天皇没・1912 = 28歳 :

同校卒業、大学院に進む。

大正政変・・・1913 = 29歳 :

_処女論文「カント学者としてのフィヒテ」を発表。

第一次大戦始1914 = 30歳 :

第七高等学校にドイツ語教師として赴任、_桑木巖翼との共訳で「プロレゴメナ」を出版して以降、カントの翻訳に専念。

大正11年条約・1919 = 35歳 : 西田幾多郎の推薦で、学習院教授となり、上京。

大暴落・・・1920 = **36歳** :

原敬首相暗殺1921 = 37歳 :

*「**純粋理性批判(上)**」を翻訳刊行、

関東大震災・1923 = 39歳 : ドイツ・ハイデルベルク大学に留学し、

護憲三派圧勝1924 = 40歳 : 帰国。

円本時代始・1926 = 42歳 : 田辺元の推薦で、京都帝国大学文学部助教授となり、西洋哲学史(のちに倫理学)を担当。

世界恐慌・・・1929 = **45歳** :

海軍軍縮条約1930 = 46歳 :

_カント「**純粋理性批判**」をついに訳了、西洋哲学の最重要書の一つが初めて日本人読者に供せられた。

満州事変・・・1931 = 47歳 :

_京大教授となり、文学博士号を受ける。

芥川直木賞始1935 = 51歳 : **学位論文「カント純粋理性批判の形而上学的性格」を出版し、カントについての最高権威となる。**

日中戦争始・1937 = 53歳 : **「道徳の感覚」を刊行し、全体主義化の風潮に抗して自由主義的個人主義の意義を説いて、右翼・軍部だけ**

健保+総動員 1938 = **54歳** :

***自発的絶版をすることなきを得た。以後も、戦時下での学問の独立を訴えるべく、**

第二次大戦始1939 = 55歳 :

名著「学生に与ふる書」(岩波新書)、

大政翼賛会・1940 = 56歳 :

「道徳への意志」、

日米開戦・・・1941 = 57歳 :

「私の人生観」、

これらの著作で、生涯の友となった野球を多く例えに出し、西田幾多郎の"一即多"まで説明している。

年金+総武装 1944 = 60歳 :

京大を停年退官し、甲南高等学校長となる。_「**信念と実践**」と主要著作を相次いで公表、

敗戦・・・1945 = 61歳 :

<敗戦>後、

新憲法公布・1946 = 62歳 :

安部磯雄の後任として、旧制第一高等学校校長となり、

新憲法施行・1947 = **63歳** :

***教育刷新委員会委員として教育政策の決定に参加。**

極東裁判決・1948 = 64歳 :

第一高校新制化に伴う東京大学像を提示するも受け入れられず、辞任。以後2年、大日本育英会会長、

三大事件・・・1949 = 65歳 :

「学生野球の父」安部磯雄の急死に伴い、日本学生野球協会第2代会長に就任すると、

朝鮮戦争始・1950 = 66歳 :

「今日に生きる倫理」刊行。_早速、早慶戦天覧試合を実現し、日本学生野球憲章を制定。吉田茂の懇請で、

第三次吉田内閣の文相となる。個人主義の行き過ぎを憂い、国家主義に傾いて、道徳教育を強調、「教育勅語」に代わる「国民実践要領」などで世間の批判を浴びる一方、教員給与費の半額国庫負担を制度化した。

独立回復・・・1951 = 67歳 :

メデー事件・1952 = 68歳 :

学生運動激化の責任をとって辞任。母校独協中学高等学校校長となり、廃校寸前の独協学園再建に尽力、

TV放送始・1953 = 69歳 :

中央教育審議会委員となり、

国連加盟・・・1956 = **72歳** :

なべ底不況・1957 = 73歳 :

自由学園理事長となり、没する直前まで在任する。

美智子妃・・・1959 = 75歳 :

後楽園から土地の無償提供を受けて、_**野球体育博物館を開館させて、**

安保闘争・・・1960 = 76歳 :

タイタイ病始・1961 = 77歳 :

学生野球協会会長を退任。文化功労者となる。

TV宇宙中継始1963 = 79歳 :

中央教育審議会会長に就任、

東京初光のつ 1964 = 80歳 :

以後3年、国立教育会館初代館長。_**勲一等瑞宝章。独協大学を創立し、初代学長に就任。**

大学紛争始・1965 = **81歳** :

全共闘のつ・1969 = 85歳 :

退任。

大阪万博・・・1970 = 86歳 :

高等学校校長も退任。「天野貞祐全集」刊行開始。_以後没するまで独協学園長を務め、

ドクソク・・・1971 = 87歳 :

全9巻完結。_中央教育審議会会長を退任。NHK放送文化賞。

石油ショック1973 = 89歳 :

***勲一等旭日大綬章。哲学者として野球殿堂入りし、アメリカには無い特色となって、**

貿易摩擦問題1980 = 96歳 :

東京都武蔵野市吉祥寺の自宅で、老衰のため_没した。

妻タマはさらに10年生き、102歳で没する。

インターネット独協大学ホームページ、平凡社百科事典、鈴村裕輔「天野貞祐と野球」、